聴秋閣（神奈川県）

元和9年（1623）に将軍徳川家光が佐久間将監に二条城内に造らせたとされる。春日局に下賜され、江戸の稲葉家の下屋敷（現在の渋谷神宮前5丁目辺り）に、明治14年に牛込若松町の二条厚基邸に移築され、最終的に大正11年に三渓園に移築された建物。

三渓園園内図

三渓園パンフレットより

原三渓こと原富太郎(1868-1939)が最初に移築した建物。豊臣秀吉が母の長寿を願って大徳寺の天瑞寺に天正19年(1591)に建てたとされる寿塔。右写真は迦陵頻伽の彫刻。

旧天瑞寺寿塔覆堂

随所に禅宗様式の特徴がみられる建物で、琵琶板には天女の彫刻が施されている（右写真）。僅かに彩色が残っており、当初のきらびやかな姿を彷彿させる。

旧天瑞寺寿塔覆堂

原三渓が生前最後に移築した建物。江戸時代に建てられたもので、大正11年(1922)に三渓園に移築された。三畳台目の小間がオリジナルと言われていて、織田信長の弟である有楽作の茶室といわれている。

春草蘆

伽藍石
伝・東大寺礎石
Corner stone
This is the cornerstone of a building that was said to have been located at Todaiji temple in Nara.

伽藍石　東大寺礎石？

山縣有朋記念館（栃木県）

山縣有朋(1938-1922)が小田原の別邸に明治42年(1909)に建てた洋館を移築した建物。大正12年(1923)の関東大震災にて被災したため、嫡男である伊三郎が現在の栃木県矢板市に移築した。

※特別に許可を頂いて撮影しております

２階応接室

２階応接室前サンルーム

上部回転窓

古稀庵内洋館入口

出典：『山縣有朋旧邸 小田原古稀庵 調査報告書』
千代田火災海上保険株式会社、1982年、p.66

現山縣有朋記念館入口

3-4_現代の移築事例　荻外荘

「荻外荘」の客間棟であった部分を、昭和35年(1960)に豊島区内に移築した建物で、平成30年(2018)まで大切に使われていた。瓦や基礎、建具や敷瓦等当時のものが多く残っている。杉並区の「荻外荘」への移築のため平成31年に分解し、各種部材は保管されている。

談話室
（旧応接室）

応接間の竣工写真

昭和2年（1927）頃　日本建築学会建築博物館蔵

広間・廊下

創建時の応接間の建具

創建時の応接間敷瓦

創建時の建具と摺ガラス

保存されている当初の部材（一部）